(本號八面)　明治二十五年八月十七日　(定價金二錢)

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

第三千四百二十三號
明治廿五年八月十七日　水曜日
(曆壬辰閏六月廿五日)(辛巳)
日出午後五時三分　日入午後六時二十七分
月出午後二時三十三分　月入午前十一時四十四分
滿潮午前十一時　干潮午後

(西曆一千八百九十二年)

時事新報定價
時事新報は每號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價郵送料廣告料は左の如し
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓○月賦然れども時事新報社より直接に郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢ノ郵送料ヲ申受ク
時事新報廣告料(箱金)

	一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘	

本社へ寄送れ付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

國民協會の始末は如何

伊藤總理大臣は就任匆々にして未だ施政上の主義を明言せざるが故に新內閣の方針は得て知る可らずと雖も其平生の言論より察するときは所謂超然主義を取るものと見て實際に大差なかる可きか如何となれば伯が憲法發布の後折に觸れ事に觸れ政治の談には每度政府と政黨との關係を說て超然の意味を云々したるみと我輩の耳にしたる所にても再三のみならず世人の明に聽むる所にして今回は恰も其言論を實にするの機會に遭ひたるものなればなり故に新內閣の方針は超然主義にして世間の政黨には一切無關係のものとして扱我輩の見る所にて一の困難事と思はるゝは彼の國民協會の處分なるが如し協會は自から協會、政府自から政府にして本來無關係のものなれば政府に於て處分の必要なしと云へば夫まで事なれども熟ら〳〵事の樣を案ずるに協會發企の事情と云ひ實際の成行と云ひ表面は兎も角も微妙の間に一種の關係あるは自から掩ふ可らず今回內閣の危機に際して協會の人々が裡面に於ける奔走盡力は一方ならずして之が爲めに幾分か政府の地位を動かしたるの形跡もありと云ひ又新內閣の組織談に就ても協會の始末は傍伴の一なりしと云ふが如き以て其大概を想像するに足る可し然るに新內閣の方針いよいよ超然と決定して世間に發表する場合には協會との關係も直に斷絕す可き筈なれども實際に於ては中々容易なる事に非ず本會が世間普通の政黨にして適ま政府に近づきて一時の情緣を結びたるものなれば雙方の都合に任せ離緣も自由にして去就に心配なかる可きなれども維新政府の眼を以て見れば會員中には絕つに絕たれぬ緣故の人もありて恰も政府と名づくる本店の出見世とも見る可きものなるが故に方針一變の爲めに遽に之を疎外するが如き裏切を示したらんには關らざる邊に行違を生じて意外の結果なしとも云ふ可らず左れば其關係を從來の僅に存せんか、新內閣の超然主義は本色を現はすを得ず斷然これを絕んか意外の困難は覺悟の前ならざるを得ず其處分の難きは傍觀者の想像して竊に心配する所なり然りと雖も更に退て一方より考ふれば我輩は新總理の方寸中自から之に處するの成算ある可きを信ぜざるを得ず今を距るみと四五箇月前伊藤伯は樞密院議長の職を辭せんとして許されず愚命優渥の極、遂に宸翰を辱ふして辭職を思ひ止まりたるみとあり當時伯の決心は辭職の上、民間に一種の政黨を組織するの計畫にして其計畫の次第は人の知らざる所なれども思ふに伯は明治政府の元老にして特に憲法の保護を以て自から任ずるものなれば民間に勢力を得て政府に反對せんなどは思ひも寄らざるみとなる可し左ればとて超然主義は兼ての持論なれば政黨の力を以て直接に政府を助くるも其本意に非ざる可し故に政府の外に政黨を組織して政府にも反對せず又平生の主義にも擅着せずして自から其間に處するの妙算は夙に伯の方寸に存したるみとならん今の國民協會は伊藤伯の發企に非ずと雖も其發企當時の事情を顧みれば伯が政黨組織を思ひ立たる時の事情に異ならずして協會の發企は畢竟その事情の必要に出でたるものにみそれば伯の發意に同意す可き人々に外ならずと想像すれば大體の成行は何れにしても大差なかる可ければなり前者の計畫は唯未發に思ひ止まりたるまでにして其發意者みそ即ち今の當局者なる新總理なれば政黨發意の伊藤伯も矢張り同一の伊藤伯にして其主義持論に於ては敢て變化なかる可きが故に國民協會の處分の如きは一考を要せずして決するみとなきを得ず唯當日の成算を今日に適用するに過ぎざるのみ我輩は新內閣の協會に對する處分を見て所謂超然主義の妙用を知らんと欲するものなり

官報

○內務省告示第三十三號
本年七月當省告示第二十九號市町村現住人口中調査ヲ闕キタル岐阜縣羽栗郡竹ケ鼻町人口左ノ通
明治二十五年八月十六日　內務大臣伯爵井上馨
岐阜縣羽栗郡
竹ケ鼻町　五一三四

○內務省告示第三十四號
明治廿五年八月十七日內務大臣伯爵井上馨

雜報

○投票紙紛失の罷實　有名なる高知縣第二區衆議院議員投票紛失事件に付き中塚高岡郡長は一昨十五日左の通り內務省より處分されたり
高知縣高岡郡長　中塚連術
本年二月其郡役所に於て執行したる衆議院議員撰擧に關する投票及點數簿并に各町村明細書郡役所に保管中盜難に罹りたる段不注意の致す所職務上不都合に付剔俸月額二箇月分を科す

○西鄕伯の一行　より昨日午前十時十一分盛岡發にて東京に達したる電報は左の如し
西鄕伯の一行當地着途中各驛にては有志者歡迎し且つ當地の出迎者數百人もありて道路山を築けり明日懇親會を開き明後十八日は演說會を開く筈なり

○水害狀況　具申の爲め上京中なりし周布兵庫縣知事は一昨夜九時五十分新橋發の汽車にて歸縣したり

○田中子爵の富士登山　宮中顧問官田中光顯子は同行者二三人と共に昨日の一番汽車にて駿州に赴き富士登山を爲すよしなり

○糖業の保護　清國臺灣を始め其他の海外地方より我國に輸入する砂糖類は年々七百萬圓前後にして其類決して尠なしとせず中にも近來に至り臺灣產の赤砂糖は琉球產の黑砂糖を壓倒して益々內地に販路を弘め年を追て輸入高を增加するの傾あるは畢竟赤砂糖の黑砂糖に比して品位の上等なる割合に價格の廉なるに因るものにして何故に斯く價格の廉なるやと云ふに全く運輸の便、不便に原因し彼の臺灣は琉球よりも寧ろ遠方なるに拘はらず運賃の廉なるものは我國と香港との間に往復する船舶の寄港に便なるを以て例へば我國より石炭を積て香港に赴き歸航に臺灣の砂糖を積みて來るときは往復共積荷ありて經濟上の都合よろしきより自然運賃の低廉なるに引換へ琉球への航海は往航に積むべき荷物なく態々砂糖のみを積に往くの事情あるが故に若し百斤の運送に臺灣より二十五錢の運賃を要すれば琉球よりは七十五錢を要し殆んど一と三との割合なるより勢ひ價格の競爭に敗を取て漸次臺灣糖の跋扈する所以なり然るに琉球の糖業は如何と云ふに同地は所謂黑砂糖の本場なるも赤砂糖とて製造出來ざるに非ず出來ながらも現今製造せざるものは全く前述の如き事情あり(算用立ざる)ものなれば假令その困難を除去るに至らざるまでも或る度まで輕くするを得ば同鳴糖業家は喜んで赤砂糖を製し以て臺灣糖に抗し少なくも其輸入の過半を減少するに至るは爭ふ可らず斯するときは國家經濟の點より見て利益なるは云ふまでもなき次第なるが然らば其方法は如何にすべきやと云ふに是れ中々の難問題にして充分の考慮を要するは勿論なるも先づ琉球產の赤砂糖百斤に付き其廻送地の遠近に應じて多少の運送費を補助する抔のみとは効あるべし兎に角糖業のみとは此僅に打捨て置くべきにあらずとて目下其筋にては此等に關する取調を爲し居る由にて都合によりては來期の議會に右に關する議案を提出するみとあるべしと云へり

○曹洞宗信徒の運動　曹洞宗の分離派は過日來熱心に信徒を勸誘して分離說に贊助せしめん事を勉めたりしが去る七月五日迄に信徒中賛成の調印を爲したる者は二十萬五千六百三十九人なりしに本月十日の統計には增して三十八萬四千六百九十人の多きに達したりと此信徒等は矢張り同派の總代と爲して能本山分る事と爲したるが若しは行政裁判所又は司法小問氏に委托したるよし

○札幌公會堂の設立談　堂設立の計畫を爲した建築する能はざるよりし物產共進會閉會せしせんと目下評議中なり

○小學生徒の罷業實施　學校にては昨年より實施し二年學級以上の生徒顚數五百十五個を得たして褒賞授與式を擧行三等二十人、四等三十人なりしと云ふ

○佐々木東洋氏の請願　豫て貧困患者を五週乃を起し多年經營する處達し得ざるに付き今度療するみとなし若し之を充たす事とせり左のは到底醫療其効なし新陳交代せしめ一人救療したき旨此程東京氏宛にて願出でたるよ

○東京醫學院內の佛教院は各宗の協賛を得、邸內へ建築に着手し其九月中には落成の見込にても授業法を改良を爲す筈なりと云ふ

○元箱根の景況　元箱根にして離新前は坊中社家れて妻子を棄ひ近國に定あり開際の時は扁舟を漕携へて根る抔生活に不自たる後は扶持に離れ守札出し損と爲り山林も規則を得るに由なく其困難洋人の夏季集ひ來たり遊び場所と爲り七八の浴場も旅客の盜れるば年を逐ふて相場を揚げ勢慮者は古箱根の湖頗る廉なるより愛所へ數人位の滯在者を見ざる浮べて一日幾艘船頭幾錢に增して優に生計を營場の諸方に增加し各新聞合ふ事となり殊に房州地の魚が喰はれるとの噂年抔は元箱根も客數實經ば遊客皆無に至るべく料を一定して非常の廉價と首を粟めて協議中なり